

要約

中国という世界最大の農業生産国と、日本という世界最大の農産物の純輸入市場との中間に位置する韓国としては、北東アジア経済協力体のスタートは韓国経済の構造改革にとって絶好の機会であると同時に挑戦であるといえる。今まで関税と各種非関税措置によって保護を受けることによって、競争が制限されてきた中国産および日本産の農産物に対して無限競争に突入せざるを得なくなるためである。特に市場開放時に中国産農産物の輸入は、韓国の農業に計り知れない影響を及ぼす可能性が高く、主要農産物の輸入の可能性に関心を持たざるをえない。

北東アジア地域の中核を成す日中韓三ヵ国は、小規模営農という共通点と生産物構成の類似性により、相互競合的という側面を持ちながらも生産要素の賦存比率が相異り相互補完的な側面も持っている。韓国は土地生産性が高く、日本は労働生産性が高く、中国は資本生産性が日本および韓国より高く、日中韓三ヵ国は農業分野での特化を通じた産業内貿易の可能性が存在する。

日中韓三ヵ国間の貿易自由化が農産物の貿易に及ぼす影響を正確に把握するためには、品目別の相対価格と市場の大きさ、消費者の嗜好と生産能力などの経済的変数、この他にも政治、社会、歴史、文化的な色々な要素を考慮する必要がある。特に、市場経済体制の導入にもかかわらず、今だに社会主義的要素が残っている中国との貿易を展望するためには、農地と用水、労働力などの農業生産要素と関連した各種の規制と慣習、制度などを考慮しなければならない。

北東アジア経済協力体を創設する場合、韓国の2014年の農業総所得は米の関税化猶予の有無および米をFTA対象品目に含むかどうか

によって、10%から39%まで減少すると展望される。米の関税化を猶予しながらFTA対象からも例外とすると農業所得の減少幅が一番小さい反面、米を関税化しながらFTA対象に米を含めて関税を大幅に下げられる場合には農業所得が最も大きい幅で減少することが明らかになった。しかし、米をFTA対象から除外すると、米の関税化を猶予する場合と関税化する場合の農業総所得には大きな差はなかった。したがって、北東アジア経済協力体を創設する時に、農業所得が大幅に減少する状況を防止するためには、米の関税化猶予と関係なく米を自由化対象品目から除外しなければならない。一方、北東アジア経済協力体のスタートにともなう関税撤廃による貿易に対する効果を“両国間潜在貿易額(PBT)”で計測した結果、農産物の貿易は大きく増加する結果となった。対日農産物輸出は2003年基準で約90%に該当する5億8千万ドル増え、輸入は240%である7億2千万ドル増加すると予測される。したがって、対日農産物貿易収支は、1億4千万ドルの赤字が予想される。対中農産物輸出は180%である4億6千万ドル増え、輸入も92%である19億ドル増加し、対中農産物貿易収支は14億4千万ドルの赤字拡大が予想される。したがって、韓国の北東アジア域内の農産物の貿易収支の赤字は約15億9千万ドル拡大すると予想される。PBT概念が米の輸入をMMA物量以内で限定する資料を利用することによって米の潜在貿易額を過小評価した傾向があり、口蹄疫による肉類の輸入禁止の影響を正しく反映できていないという限界があるが、貿易自由化による貿易転換の効果の上限線を提示するという意味がある。

北東アジア経済協力体の締結がほかの品目の生産と価格に及ぼす効果は、米の輸入および生産が該当品目の生産に影響を及ぼす程度により異なった。豚肉と牛肉など畜産物は、米の関税化猶予の有無にともなう影響は殆どない代わりに、FTA締結時に生産量が減って価格が下落する。唐辛子の生産量は、FTAを締結する場合、減少するだけでなく、米をFTA対象品目に含めると、より一層の減少がある。主要品目別の競争力に対する定性分析の結果、大部分の中国農

産物は現在韓国と日本に比べて、価格競争力で絶対優位を持っているが、品質競争力は低いケースが多くあることがわかった。さらに、畜産物と果物類の場合、動植物検疫問題により輸入が禁止され、FTA締結時に短期的には輸入が不可能な品目も多く発生する。しかし、長期的には大部分の品目の輸入が可能になり、増加すると予想される。ただし、中国経済の持続的な経済成長にともなう農地転用と農業労働力の離農、そして北部地域の水資源枯渇など農業生産の増大を制約する要因が多いことがわかった。

特に、中国は同質的な一つの国家とみるより異質で多様な地方政府(省)の連合体とみることができ、特定農産物の韓国輸入の可能性を予想するのが困難である。食糧の自給自足を優先視する地域と、比較優位にともなう特化と輸出を強化しようとする東北地域および山東省など都市近郊地域とが共存しており、多様なアプローチが要求されるためである。一つ明らかなのは、韓国や日本の消費者の需要が存在する限り、地理的隣接性と生産条件が有利な地域を中心に生産と輸出がなされるという点である。

中国は、農産物の消費市場としても多様な特性を持っている。所得が増加して都市化が進行するにともない、穀物類の消費は減り、肉類と食用油、果物および加工食品の消費は増加する傾向であるが、未だに人口の大部分を占めている低所得農村地域においては穀物類の消費が増加している。また、南部沿岸地方のような高所得地域においては、高品質の農産物と食品に対する輸入需要が急増すると予想される。最近まで中央及び地方政府の食糧自給政策により、市場規模に比べて農産物の輸入規模が相対的に小さかった中国は、持続的な経済成長のために資源の効率的配分が避けられないものと思われる。したがって、米を除いた大部分の穀物類と植物性油脂類、肉類の輸入が増える可能性がある。

結論的に言えば、すでに高級化された日本の農産物市場と中国の高所得階層または都市地域の市場に対する進出拡大のためには、品質の高級化と高付加価値化、そして食品安全性の強化が必須である。

合わせて、気候と地形など天然条件によって、または歴史と文化的要因によって、比較優位を持つ品目を積極的に開発して、市場の隙間を切り開く努力も必要であると思われる。

ABSTRACT

Effects of Northeast Asian Economic Cooperation on Korean Agriculture

The FTA between China, Japan and Korea (CJK FTA) would be a great opportunity and a challenge to the Korean agriculture at the same time. When the FTA becomes effective, Korean farmers will face full competition without regulatory protection against imported products, such as tariff and non-tariff barriers. The possibility worries Korean farmers, since it has been known that Chinese agricultural products have comparative advantages.

China, Japan and Korea constitute the core of Northeast Asia and are sharing some common characteristics in terms of farming, such as small-scale farming and production of similar types of agricultural products, so that they have to compete each other. At the same time, however, factor endowment ratios differ among them, so that they are also in complementary relations. For example, land productivity is highest in Korea, while labor productivity is higher in Japan than other two countries. China commands highest capital productivity in agriculture. These facts imply that there is a possibility of intra-industry trade among the three countries through cooperative specializations in the agricultural sector.

The CJK FTA would reduce the total agricultural income in Korea. According to the scenario on rice tariffication and its exclusion from the FTA, the agricultural income would drop by 39% by 2014. It shows that the agricultural income of Korean farmers will get the smallest

when rice tariffication is deferred and rice is excluded from FTA. To the contrary, the agricultural income may fall greatly if rice is tariffed and also included in the FTA. But, the simulation shows that the effects of FTA are almost same regardless of rice tariffication, as long as rice is excluded from the FTA. This result conveys an important policy indication that rice should be excluded from the CJK FTA in order to prevent agricultural income plunge.

Measured potential bilateral trade(PBT) also suggests that the CJK FTA may expand agricultural trade among the three countries. Korean agricultural import from Japan is expected to increase by 240 percent or 720 million dollars, while export will increase by 90 percent or 580 million dollars due to the CJK FTA. On the other hand, Korean agricultural import from China is expected to increase by 92 percent or 1.9 billion dollars, while the export to China is estimated to rise by 180 percent or 460 million dollars. As a result, in the agricultural trade with Japan, Korea is expected to lose its surplus by 140 million dollars while, in the trade with China, Korea is projected to expand its deficit by 1.4 billion dollars.

Effects of the CJK FTA on production and prices of other agricultural products appear to differ in accordance with their relations with rice. Pork has almost no impact from the FTA and rice tariffication. Production and prices of beef and chicken, however, are expected to fall due to the CJK FTA.

Qualitative analyses of agricultural competitiveness shows that most Chinese products have absolute advantages in price but not in quality. Considering various conditions of agricultural production in China, such as water supply, land systems, labor productivity and access to consumers in cities, the comparative advantage of Chinese agriculture might be faced with some limitations in the near future. With the growing interests in food safety and higher quality, Korean

北東アジア経済協力体の創設と三ヵ国農業への波及効果

farmers should also diversify their production and develop niche markets for higher value-added products, such as clean and organic food and environmental friendly agricultural products.

Researchers: Myong-Keun Eor, Chung-Gil Chung,

Bae-Sung Kim and Joo-Nyung Heo

E-mail Address: myongeor@krei.re.kr